

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 4 6	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
A pilot study of an interactive web site in the workplace for reducing alcohol consumption. 職場での相互的な web サイトによるアルコール消費量の減少に関するパイロット研究	
執筆者	
Matano RA, Koopman C, Wanat SF, Winzelberg AJ, Whitsell SD, Westrup D, Futa K, Clayton JB, Mussman L, Taylor CB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Subst Abuse Treat. 2007 Jan;32(1):71-80.	
キーワード	
飲酒、アルコール、ウェブサイト、フィードバック、リスク評価	
要 旨	
<p>背景： 労働者のアルコールの乱用は常習的欠勤、仕事の中断、職場での怪我、アルコール関連疾患、生産性の低下などの増加と関係することが報告されている。アメリカでは、アルコール乱用による損失は 270 億ドルから 1360 億ドルに上ると推定されている。この問題を防ぐために、雇用者はアルコール乱用に関するポリシーとプログラムの確立が必要である。コンピューターを用いた介入はうつ、不安、減量、摂食障害などで効果を上げており、自由な時間に使用できプライバシーを保つことが可能である。これらのことから本研究ではアルコール消費量の減少のための双方向 web サイトのパイロット研究を行った。</p> <p>方法： シリコンバレー地域の労働者 8567 名を勧誘した。介入前調査票を返送し、web サイトにアクセスした 229 名のうち、アルコール関連の問題について Alcohol Use Disorders Identification test (AUDIT), Cut down, Annoyed, Guilty, and Eye-opener (CAGE) questionnaire を使用して評価し、低、中等度、高度に分類し、アルコールの問題が中等度以下の 173 名を介入の対象とした。調査期間の 3 ヶ月、追跡を行えた 145 名を解析対象とした。アルコール関連の問題に関して、31 名中等度、114 名が低リスクであった。参加者のうち女性が 78%を占めた。参加者には 90 日間 web サイトにアクセスさせた。Web サイトで参加者のストレスレベルに対して対処戦略を含むフィードバックを行った。また対象者をアルコール問題に関して一般的な情報のみを与える群(limited feedback)と、個人のアルコール問題のレベルに合致した個人的なフィードバックを受ける群(full feedback)とにランダムに分類した。介入前後でアルコールの消費量について質問紙で調査した。</p> <p>結果： web サイトのアクセス時間は、中等度のリスク者で full feedback 群が 16.7 分、limited feedback 群で 18.9 分であった。低リスク群では full feedback 群が 19.7 分、limited feedback 群で 16.8 分であった。中等度リスク群、低リスク群ともに limited feedback 群に比べて full feedback 群でビールの飲酒頻度が有意に減少した。ほかの違いは見られなかった。</p> <p>結論： この結果から、暫定的ではあるが双方向 web サイトを利用した個人的なアルコール問題のリスクによるフィードバックを提供できる可能性を示唆した。勧誘が困難であったことから、サンプルサイズは介入によるアルコール飲酒への影響について評価するには不十分であった。また参加率が 2.7%と低かった。このことは職場を通して従業員に同様の介入について勧誘する際の課題である。</p>	